

令和5年度 改善方策の実施結果

世田谷区立武蔵丘小学校

校長 今宮 直樹

前年度に提案した改善方策について実行した結果を、下記のとおり報告いたします。

記

1 児童が目標をもち、その実現に向けて努力できる力を育てる

(1) 改善策

- ・児童の将来への自己実現に向けた、キャリア教育の年間計画を見直し、地域人材を生かして計画的、組織的にキャリア・未来デザイン教育を推進する。その達成に向けて、キャリア教育のねらいや活動の内容を、保護者会へも周知していく。
- ・せたがや探究的な学びを踏まえ、学習や生活のめあてを振り返るなど、むさし探究的な学びを行う。また児童の自主的な目標を尊重し、すぐに調べ、探究できるようにICTタブレット機器の効果的な活用も進める。
- ・児童の努力することの大切さを育むため、特別の教科道德の充実を図っていく。

(2) 改善結果

- ・各学年におけるキャリア教育の年間計画の精選と見直しをした。また本校に関わる保護者や地域の協力を得て、主に総合的な学習の時間において計画的、組織的に取り組み、児童への学習意欲を高めた。ねらいや内容は、保護者会や、学校だより、お知らせ等において保護者に周知してきた。
- ・ICTタブレット機器の活用により、いつでもどこでも探究できる態度が身についた。
- ・自己実現への努力の大切さについては道德だけでなく、全校講話や生活指導においても指導した。
- ・上記を通じて、一定の改善効果が見られたと考える。

2 すすんでよく本を読み、心豊かな児童を育てる

(1) 改善策

- ・年度当初に具体策を検討し、取り組んでいく。
- ・調べ学習が、本からタブレットに変更している事実が伺える。また、本は読んでいるが、「すすんで」や「よく」となるともう一歩といったところである。そのような中でも、朝の短時間学習で読書活動を行うなど、言語活動の充実を図り、読み解く力や豊かな言葉で伝える力を育てていく。
- ・アンケートから「本をよく読んでいる」が年々顕著に下がっている。これまで以上に

司書教諭および近隣図書館との連携を深めていく。

- ・読書は、知識の獲得や他人、多様な価値観に触れることができ、また人への思いやりにも関わる有意義な活動である。引き続き読み聞かせの充実を図り、本に親しめる環境を進めていく。
- ・家庭でも読書をしていけるよう、呼びかけていくなど、児童が読書活動に取り組めるように、家庭との連携を図っていく。

(2) 改善結果

- ・読書時間の確実な確保や読み聞かせや図書担当や委員会による活動により、つまみ食い読書など新たな工夫を取り入れ、読書においては強力的に推進してきた。調査結果が伸び悩んでいるところには疑問が残る。
- ・関係機関との連携もより深めてきたつもりである。ICT タブレットが普及するにつれて特に「知識」は本よりタブレットから得る傾向が見られている。
- ・家庭読書への呼びかけも、年度当初の保護者会において周知した。
- ・上記の積極的な工夫などを通して、活用頻度は増え、一定の努力効果の改善効果はあったが、「物語」等の読書離れはまだ課題が残る。筆者の価値観を得られる「物語」のさらなる改善を目指す。